テンタ君だより NO.3

長田商業高等学校
6月1日　発行

長商生のみなさん、いよいよ学校が再開されました。新型コロナウイルスの流行も下火になり、社会全体に活気が出てきています。

４月からを振り返ると、説明会のあとは、授業や学校行事はできず、いったん５月７日に再開を予定したものの、緊急事態宣言が延長されて５月いっぱいまでの臨時休校となってしまいました。その間、生徒がいない学校は、まるで長い眠りに就いているように静まり返っていました。

それでも長田神社や高取山の木々には、青葉が覆いつくすほどに茂り、初夏の目覚めにぴったりのさわやかで優しい緑にあふれかえっています。

その中で待ちに待った学校が始まりました。みなさんは、学校生活の雰囲気をゆっくりと感じながら、学校に慣れていってください。

“新たな日常”

新型コロナウイルスの流行により、私たちはこれまでの当たり前に感じていた日常を失いました。その中でもっとつらい思いをさせられた人もいるのではないでしょうか。私は休校のある日の夕方、普段なら学校が始まるころ、こんな思いが頭をよぎりました。

〈失うまえに〉

おなかがすいて、はじめて食べられる幸せに気づきます。病気になって、はじめて健康のありがたさに気づきます。失業して、はじめて仕事を持つ喜びに気づきます。

人は、何かを失った後で本当の価値を知り、時として失ったことを悔やむのかも知れません。

できることなら、失うまえに何気ない毎日の暮らしの中に喜びやありがたさに気づいていきたいものですね。

そうすれば、その喜びの心や感謝の心が、また次の喜びにつながることになるでしょう。

失うまえに、大切なものに気づくことができたらどれだけ幸せでしょうか…

生命、学び、健康、愛、家族、友人、平和…　たくさんの大切なものに気づくことが、私たちの新たな日常を豊かにしてくれます。

日常とは何かを考えた日は、昼間は青空いっぱいで、鮮やかな夕焼けがまわりを赤く染めていたのを覚えています。そして坂をのぼってくる生徒たちのいない静まり返った校舎の夕暮れでした。

コロナウイルスによって学校だけでなく、家や職場でも「今までの日常」から「新たな日常」を過ごすことになります。目に見えないウイルスの恐怖を常に意識しながら、マスクの着用やこまめな手洗いなど「新たな日常」を過ごしていきましょう。

（高木　健作）

登校可能日

５月２１日（木）、本校の設定した登校可能日に生徒たちが次々に登校してきました。

先生方はどれぐらい登校してくるかな…と少し気をもんでいましたが、生徒たちは以前と変わらない元気な様子で思った以上の登校人数でした。

本科１年生は、教室に入って担任の先生や新しい教科担当の先生方からの話をしっかりと聞いていました。簿記をはじめ、本校で１からスタートする授業も多いので、６月から全力でがんばってほしいと思います。

他の学年の生徒たちも、先生方から課題の様子や健康状態の確認などを受けていました。

確認をお願いします

学校が再開されたとはいえ、先行きは不透明なままです。学校に関する情報については、ホームページに随時アップしています。休校期間に引き続き、生徒や保護者のみなさんは、こまめに情報の確認をお願いします。

登校再開日以降のスケジュールなども掲載する予定ですので、ホームルームでの連絡とあわせてチェックしておいてください。

進学や就職を控えている３・４年生の生徒は、入試や企業訪問などの情報は、常にアンテナを張りめぐらせておきましょう。

学校の再開のもと、自分のベストが尽くせられるコンディションづくりに心がけてほしいです。